

八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 水田中耕除草機、株間除草機		現地の通称:	
資料種別: ☒ 製品-実物 ☐ 製品-レプリカ ☐ 製品-模型 ☐ 製品図面 ☐ 写真等 ☐ 図書掲載 ☐ その他			
資料種類: ☒ 人力用具 ☒ 手押し式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用 ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類 ☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☒ 管理用 ☐ 機素 ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他		管理プレートNo.	統一分類記号
		台帳No. Y142	
		相手先番号等	
製作者・会社: 不明		製造市・国名	
製造年_購入年,標本収集年			
使用目的・使用方法等	水田用の中耕除草機。稲作においても畑作物と同様に中耕除草が重要であり、古くから人力の田草取りに多大の苦勞があったため、幕末期から八反取、太一車や雁爪などが使われていた。本機は、大正・昭和初期に改良されて急速に広まった形式であるが、1970年代に水田除草剤が普及してほとんど使われなくなった。しかし、中耕の効果を求めて動力型を利用する人や、自然農法で必須の作業機として使われている。標本の中耕除草機は、転車（てんしゃ）と称する爪車を前後に2個配し、手押しで転車を回転し、転車の爪によって土を攪拌して中耕と除草とをかねる。		
利用経過 収集記録 意義等	株間除草機は、1960年頃に発明された比較的新しい作業機であるが、稲株の間の除草は不可能とみられていただけに、大変な評価を受けた。一部この発想が畑作の株間除草にも転用されて、カルチベータに取付けられるなど、活発な動きをみせた。		
仕様書 解説等 右に 全体図	仕様未調査 全体写真1：写真左：水田除草機、 右：株間除草機 関連図1：水田中耕除草機 2：在来型と最近の中耕除草機 3：最近の動力型株間除草機 4：幕末の中耕除草用具		
外観特色 関連図等			
資料の 所在	展示場付属倉庫		
資料管理 経過	資料追記 事項		
作業メモ 追記文			